

# 2024年5月21日掲載 物流ニッポン

## 山形・東根にセンター

### 第一貨物 初の製造物流拠点 7月本稼働

製造物流を担う東根臨空  
物流センター



第一貨物（米田総一郎社長、山形市）が山形県東根市に建設していた東根臨空物流センターが15日に竣工し、7月上旬から本稼働する。同エリアでは最大規模の物流施設で、スリーエムジャパンプロダクツ（伊藤誠社長、東京都品川区）の専用倉庫として、主に原材料の保管・供給業務を担う。これまで、特積みの路線網を生かした「販売物流」を手掛けているが、「製造物流」を提供するのは、同社では初

めとなる。15日には関係者を招き、内覧会を行った。山形空港エリアに位置し、国道13号や東北中央自動車道の東根インターチェンジ（IC）に近い東根市神町字西原地区に建設した。荷主の山形事業所から900㍍と近く、第一貨物の既存倉庫「東根物流センター」から1.5㍍、特積み拠点の天童支店からは4.5㍍。敷地面積が2万3300平方㍍。建物は鉄骨造り一

部2階建てで、延べ床面積が1万平方㍍。平屋建ての定温倉庫と2階建ての事務棟が一体化した施設で、定温倉庫の床面積は8100平方㍍。庫内は保管貨物の品質を保持するために、一定温度（セ氏25度）で管理する定温倉庫で、重量物の保管需要も見込まれるため、床荷重は1平方㍍当たり2㍏と強度を高めた。収納容量の増大を図るため、天井は約10㍍（はり下）と高めた。高多層式ラックを設置することで、5千パレットが収納可能となる。

車両接岸部は庫内温度の維持や風雨雪の吹き込みを考慮し、ドックシェルターを採用。トラックバースは4㍏車2台、大型車6台の計8台分のドックシェルターを設備し、ドックレベラーを使って、幅広い車種の積み下ろしに対応できる。このほか、床や外壁部、屋根には断熱材を施し、定温倉庫の機能向上と空調負荷の低減を図った。また、倉庫と事務所の照明は、省エネ対応のLED（発光ダイオード）や調光可能な器具を設置するなど、環境に配

慮した設計になっている。米田社長は「販売物流では長い間お世話になってきたが、製造物流は初めて。原材料の保管に加え、製造の前工程作業も含めて、製造ラインにタイムリーに供給し、スリーエムさまの業務改善の役に立ちたい。製造物流のノウハウを蓄積し、良きパートナーになるよう努める」と述べた。

（黒田秀男）